

# 大学主催による短期語学留学制度の抱える課題

今井新悟

0. はじめに
  1. ハワイ大学における外国人のための英語教育概要
  2. New Intensive Courses in English (NICE) program
  3. Special English Program：オーダーメイドのプログラム
  4. 研修内容・方法の問題と対策
    4. 1. 能力判定・能力別クラスわけの問題
    4. 2. 教室環境・設備の問題
    4. 3. 教室（授業）外の過ごし方の問題
    4. 4. 大学の単位振り替えの問題
    4. 5. オーダーメイド（SEP）の問題
  5. 総合大学に派遣するメリット
  6. 宿泊
    6. 1. 寮
    6. 2. ホームステイのすすめ
    6. 3. ホームステイに関する受け入れ大学の立場
    6. 4. ホームステイ選定の基本的留意事項
    6. 5. ホームステイの費用
    6. 6. ホームステイでの食事
    6. 7. セキュリティー・門限
    6. 8. 通学方法：バス
    6. 9. 家族構成・家屋
    6. 10. 部屋
    6. 11. ホームステイ先にホームメイト（他のホームステイ者）がいる場合
    6. 12. ホームステイでの賠償責任
    6. 13. ホームステイ家庭とうまくいかない場合
    6. 14. ホームステイ斡旋業者の評価と問題
  7. 危機管理・健康管理
    7. 1. Student Health Service
    7. 2. 危機管理と引率者
  8. 参加者の評価
  9. 短期語学研修を日本の大学が主催することの意義
- 参考文献  
資料

## 要旨

山口大学における数週間の語学研修を目的とした短期派遣事業のなかの、ハワイ大学マノア校に対する派遣をコーディネーターとして支援しつつ、現地にて行った研修コースやホームステイの調査を踏まえて、大学が主催する短期語学留学制度の問題点を指摘し、その対策を提案するとともに、大学がこのような語学留学を主催し、推進することの意義について論じる。

### 0. はじめに

山口大学は、これまで、カナダ、中国、韓国、ドイツなどに短期語学研修として学生を派遣してきた。さらに、2004年には、ハワイ大学マノア校において行われる短期英語研修New Intensive Courses in English (NICE) programにも派遣を開始し、冬季に4名の学生を初めて派遣した。今後、短期語学留学のみならず、1年あるいはそれ以上の長期の留学派遣も含め、量的、質的向上が望まれている。そのために、大学は支援体制を確立する必要がある。この動向は、平成15年12月16日に出された中央教育審議会の答申「新たな留学生政策の展開について」に述べられている、国としての支援体制の確立とも連動するものである。以下に答申の一部を引用する。

これまでの留学生政策は、国際貢献という観点から外国人学生の受入れに重点を置いたものであった。しかし、今後は、諸外国との間の相互理解の増進、友好関係の深化という観点から、交流という面をより重視していくべきである。取り分け、現在日本人学生の海外留学に対する国の支援は限られたものでしかない。しかし、我が国の国際競争力の強化やグローバル化した社会で活躍できる人材を育成するという観点から、より多くの日本人学生が短期留学や学位取得を目指して海外留学を経験することが望ましく、国として、それを推進する必要がある。

このように、留学生受け入れに対して、留学派遣の支援が貧弱であったという反省に立ち、支援の重要性が指摘されている。大学における派遣支援体制の現状をみると、私立に対して国立大学においてその貧弱さが目立つ。わが山口大学も例外ではない。今回はじめて実施されたハワイ大学語学研修への派遣をケーススタディとし、派遣の業務を通して観察できた支援体制の現状を分析し、問題のありかを明らかにし、今後の留学支援のあり方を考えるのが本稿の目的である。まず、次節にてハワイ大学における外国人のための英語プログラムの概要を紹介する。ケーススタディとしてみていく、短期語学研修プログラムはその一部になる。

### 1. ハワイ大学における外国人のための英語教育概要

ハワイ大学は外国語教育の分野においては全米随一の規模と質を誇る。Outreach Collegeという部門で、会話中心の3週間ないし4週間のNew Intensive Courses in English program (以下NICE) プログラムと10週間のプログラム、そして、Special English Program (以下SEP) を実施している。SEPはたとえば日本のある大学からの参加者が相当数ある場合、その参加大学用に期間、内容を設定して実施するオーダーメイドのプログラムである。ハワイ大学内には、他に、University of Hawaii English Language Program (HELP)を主催するDepartment of English

as a Second Languageがある。Outreach Collegeは日本の大学でいえば、エクステンション・センター等に相当する機関であり、広く地域コミュニティーに門戸を開いて各種講座を開講している。その一環として外国人に対する会話中心の英語教育を実施している。講座はハワイ大学の単位が出るものと出ないものの別がある。NICEプログラムは無単位の講座に属する。一方Department of English as a Second LanguageのHELPプログラムは、総合的な英語能力の向上を目指すものであり、10週間のコースのほか、3週間のTOEFL準備コースがある。スケジュール上、HELPプログラム内の両コースは継続して受講できるようになっている。つまりHELPプログラムは、正規留学を前提とし、英語の能力が不十分な者に対する予備教育を行うものといえよう。

## 2. New Intensive Courses in English (NICE) program

NICEプログラムは、ハワイ大学マノア校のOutreach Collegeが主催する、冬季3週間、夏季4週間の会話中心のコースである。授業は午前8:30~12:00に行われる。その他各種アクティビティーが含まれる。各種アクティビティー、オリエンテーション、卒業式などを除くと、週16時間の授業がある。(資料1 WINTER NICE 2004および資料2 SUMMER NICE 2004のスケジュールを参照。)この週16時間というのは、ビザの関係上、実施できる最大時間数となっている。この時間数までは、短期ビザを必要とせず、これ以上の時間を設定すると、その授業を受けるために、I-20とそれによるF1ビザの取得が必要になる。

当プログラムへの参加者は、例えば今回(2004年冬プログラム)では、約70名おり、その受講者の約9割が日本人である。他にスイス、中国、タイなどからの参加者が少数いた。ハワイへの語学留学生の国籍は、今季に限らず、一般に、日本、韓国、中国、そしてスイスが多い。

オリエンテーション、プレースメントテストを経て、最大人数15名のクラスに分かれて授業を行う。レベルは今季は4レベルであったが、このレベル数は、各プログラムの受講生数によって変動するようである。つまり、絶対評価によるものではなく、相対評価により、1クラスの人数が12名から15名になるように調整される。

授業はコミュニケーション・アプローチを機軸とし、ロールプレー、アクティビティーをふんだんに取り入れた、学習者参加型の授業形態である。言葉のみならず、異文化理解教育も行う。それは、コースのタイトルがOral Communication and Cultureとなっているところからも伺える。

毎日、授業の後半には、Teaching Assistantが受講者2名に対して1名の割合でつく。これによって、会話練習の機会を格段に増やしている。

教科書はレベルごとに市販のESL用教科書が指定されている。いずれも、場面設定のある会話練習用のものである。それを受講者各自が、Campus Book Storeで購入して使用する。しかしながら、教科書をすべてカバーすることはなく、授業の仕方はある程度教師の裁量にまかされているようである。

Outreach College所有の教室もあるが、今期は、当該プログラムのほかに、10週間の会話プログラムも同時進行していたため、教室が足らず、Student Centerのセミナー室や他学部の教室・実験室などを借りて授業を行っていた。

受講生に対するサポートは、Outreach College所属のStudent Service Specialistのほか、オフィスにいる3人ほどのTeaching Assistantが担当し、各種サービスを提供し、受講生の支援を行う。

### 3. Special English Program : オーダーメイドのプログラム

Special English Programは日本側で、一定の参加者を集めて、希望時期、期間、内容の要望を出すことにより、それに合わせて、Outreach College側が教師を集め、プログラムを作って実施してくれるものである。例として2004年夏に山口大学が計画中のプログラムのスケジュールおよび費用としてそれぞれ、資料3および資料4を参照。

授業内容はNICEプログラムとほぼ同様であるが、日本側の学年暦に合わせて日程を組んでいるので学生は参加しやすい。また、参加者側の要望により、英語の授業の内容を会話から、語彙、文法、ライティングなどへ重点を移したりもでき、また、国際政治、異文化理解、文学、観光学などの特別な授業の設定などもできる。講師は広くハワイ大学機構から招く。このようにして参加大学側で希望する内容の授業を設定すれば、後述する、単位振り替えの可能性を高めることができるだろう。

### 4. 研修内容・方法の問題と対策

#### 4. 1. 能力判定・能力別クラスわけの問題

絶対評価によるものではなく、相対評価により、1クラスのサイズが12名から15名になるように調整される。クラス運営の経済的な視点からみれば、致し方のないことであろうが、参加者のレベルはたとえ中級や上級とされたとしても、それは参加者の中での相対的位置に過ぎず、参加者の実力を客観的に測定したものではない。

コース修了後にStudent Evaluation (資料5および資料6)が行われる。「クラスで英語だけを使ったか、クラスへの参加度、準備の程度、及び出席率」により評価され、それに基づいてCertificate (資料7)が与えられる。しかし、これら評価は、レベル別クラス内で行われること、および英語能力を直接測る項目がないことから、proficiencyを測ることはできない。この点をプログラムコーディネーターに指摘したところ、3週間の学習で目に見えてproficiencyを伸ばすことは保証できないということであった。確かに、英語に慣れることはできても、数値に表れるような進歩を3週間で期待するのは無理かもしれない。テストを実施した場合、そのテストの統計学的信頼性を高め、得点等化など統計学的操作を施さない限り、スコアが下がる場合もあるだろう。主催者はそこまでの手の込んだ評価の実施は現実的ではないという見解を持っている。

しかしながら、この評価の問題は、母校での単位互換とも関わる問題であり、やはり、絶対評価が必要であり、それが可能な外部テストの利用、例えばTOEFLなどの導入を検討すべきである。会話中心の授業であるので、TOEFLは適当でないとするならば、会話重視のテストとしてThe American Council on the Teaching of Foreign Languages (全米外国語教育協会)のOPI (Oral Proficiency Interview) などで口頭運用能力を測定することができるはずである。

#### 4. 2. 教室環境・設備の問題

既述のように、主催のOutreach College所有の教室もあるが、今季は、当該プログラムのほかに、10週間の会話プログラムも同時進行していたため、教室が不足し、Student Centerのセミナー室や他学部の教室・実験室などを借りて授業を行っていた。そのため、ビデオなどの外国語教育に必要と思われる設備を欠いている。黒板等の基本的な設備はあるが、語学研修に理想的な教室環境にはほど遠い。プログラムの立案の段階で、教室環境の詳細な情報の確認をす

ることにより、事前に対策を講じてもらう必要がある。

コンピューターについては、Outreach College所有のコンピューター室があり、ここには20台ほどのマッキントッシュがあり、インターネットも日本語環境で使用できる。印刷も無制限にできる。TAが常駐し、アシストしてくれるので使用上困ることはない。しかし、部屋の使用時間が、午後（英語の授業終了後）2時間に限られている。その他の時間は図書館でコンピューターが使用できるが、日本語で使用する場合には、フォントのダウンロードという作業が必要になる。ダウンロードしたものはハードデスクに書き込まれないように設定してあるので毎回同作業を行うことになる。この作業にはいささかコンピューターの知識を必要とする。日本語でのメールのやりとりは、特に家族との連絡には必要となる。

#### 4. 3. 教室（授業）外のごし方の問題

授業は基本的に午前中で終了する。午後にアクティビティーがある場合は参加できるが、これは任意参加である。観察していると、日本人同士でグループとなって、ワイキキに買い物や遊びに繰り出す日本人学生も多い。これでは、英語学習の効果は半減する。意識の高い参加者の中には、学部事務室および担当教授の許可を受けて、正規の授業を聴講した者もいる。また、授業終了後、早めに帰途につき、ホストファミリーと英語で会話する時間を多くとる者もいる。授業以外の時間をどのように過ごすかが、短期語学留学の成功・失敗のカギを握っている。

#### 4. 4. 大学の単位への振り替えの問題

語学留学の動機付けの一つとして、単位の振り替えを真剣に検討すべきである。現状では、本学の場合、短期語学留学の場合は単位認定がほとんどなされていない。せいぜい、卒業単位外の選択科目の単位として位置づけられている程度である。（例外的に、工学部社会建設工学科東アジア国際コースでは、短期海外語学研修を単位化し、奨励していることは特筆に価する。）研修の内容が英語会話に限定されているため、拡大解釈して、大学の授業科目と同様とみなすのにも無理があるのが単位振り替えを難しくしている主因であろう。そこで、提案したいのが、海外での短期語学研修において、語学ばかりではなく、大学の科目内容に似た授業をも独自プログラムでデザインして、それを英語を使って学習する方法である。それに必要となる教官は、ハワイ大学の場合、Outreach Collegeで、ハワイ大学システム（マノア校以外にも数大学が同システムに所属している）内の豊富な教官陣の中からアレンジすることができる。

#### 4. 5. オーダーメイド（SEP）の問題

前掲のNICEプログラムは2月初旬からの3週間と7月下旬からの4週間に設定されている。日本の国立大学では、一般に7月末までが、前期となっており、夏季NICEプログラムへの参加は期末試験についての特別な配慮がない限り、日程的に難しい。

NICEプログラムとは別に、日本の各大学のスケジュールに合わせて、プログラムを組むことができるのがSEPであることは前述した。しかしながら、このSEPプログラムの実施には以下の問題があり、これを解決しなくてはならない。

Outreach college側が提示した現行の方式では、実施最小人数は12名である。1クラスのサイズを最大15名とし、参加者が15名を超えるごとに教師を確保し、クラスをひとつ増やす。よって15名以下の場合にはレベル別クラスにはならない。16名以上で、レベルが2つになり、以後、

人数が増えるにしたがって、レベルも細分化される。個々のレベルにあった授業を行ってもらうためには、人数を増やして、なるべくクラス数を多くしなくてはならない。

Outreach college側が提示した現行の方式では、授業料は15名までは、NICEプログラムに準ずるものの、16名となった場合、クラスが2クラスになるため、教師を2名確保しなくてはならず、その給与保証のため、参加側は、12名の倍、24名分の授業料を払わなくてはならない。そうすると、24名分の授業料を参加者16名で分担するため、一人当たりの負担がNICEプログラムに示されているものよりも高くなる。このような変則的な料金設定は、人数が16名から23名までの場合、31名から36名の場合...と人数が増えても続くことになる。これでは、参加者への負担説明ができない。大学によっては、大学が差額を補填しているところもあるそうである。独立採算のNICEプログラムであり、その都度教師と雇用契約を結ぶシステムであることを考えると、現行のシステム変更は難しいのではないかと予想される。

この問題に、日本の大学側で対応するには、今のところ以下の2つの方法が考えられる。一つには、学内で大人数を募集し、近隣の大学に参加を呼びかけ、通常のNICEプログラム同様に、大人数を送り込むことである。そうすることによって、1クラスの人数に柔軟性をもたせ、12名以下のクラスが生じて採算があうようにすることである。

もう一つは、募集人員に制限を設けることである。これは「段階式定員制」とでも呼ぶべき方法で、最初の募集は、15名までとし、パック旅行と同様に、最小催行人数を12名と明示する。応募者が15名を大幅に超える場合は、2次募集として、新たに15名を限度に募集する。このようにすれば、料金を一定に保てる。ただし、この方法では、1次募集の15名で実施することになった場合、レベルの違う者が皆一つのクラスになってしまう。これには教室内でグループワークなどでレベル別に対応してもらうしかない。また、単一大学のみでのグループ編成では、他参加者との交流という意味では魅力に欠けることになる。

## 5. 総合大学に派遣するメリット

ハワイ大学では、Student Centerを中心に、一通りの設備、郵便局、銀行、バスケット売り場、映画・コンサートチケット売り場、ブックストア、レストラン、劇場、ATMなどがそろっている。銀行での円・ドル両替も可能。クレジットカードによる現金借り出しも可能である。広大なグラウンドやその他スポーツ施設も充実している。図書館はUnder GraduateとGraduateに別れ、蔵書は充実している。コンピューターも自由に使える。The Leisure Centerでは、フラダンス、ヨガ、ホエールウォッチング、サーフィンなどの企画・講習会も企画している。英語を使ってこのような活動をすることは英語能力を伸ばす上でも大変有効であろう。

英語プログラム参加者には有料（5ドル）でハワイ大学学生証が発行される。この学生証を取得することにより、キャンパス内の運動施設、保健センターを含むすべて施設を正規学生同様に使用することができる。学生証はキャンパス外でも有効であり、各種学割を利用できるほか、米国では必携の写真つきIDにもなる。

また、The Leisure Centerの提供するアクティビティーにも学生割引で参加できる。リクリエーションのための道具なども格安でレンタルできる。キャンパスはひとつのコミュニティーであり、いろいろな施設がある。この恩恵をすべて享受でき、学生生活を十分に楽しむことができる。また、上述したように、意識の高い参加者の中には、学部に赴き、正規の授業を聴講した者もいる。大規模総合大学であるので、このような授業の選択肢も広がる。以上のような

恩恵は、ハワイ大学のような規模の大きな総合大学規模であるがゆえに享受できるものといえよう。

## 6. 宿泊

### 6. 1. 寮

大学にいくつか寮があり、相部屋でも個室でも宿泊可能である。例えば、イースト・ウエストセンターでは、寝室・リビング・キッチンの間取りで65ドル/日（食事別）で宿泊できる。キャンパス内にあり、便利で快適である。しかし、英語の授業のない午後からは、一人で、あるいは研修参加者同士で過ごすしかなく、英語研修の目的からすれば不向きであると考えられる。

### 6. 2. ホームステイのすすめ

語学留学を成功させるにはホームステイをすべきであると強く主張したい。語学留学の成功のカギは授業以外の過ごし方にある。そして授業以外の時間の要になるのが、ホームステイである。

### 6. 3. ホームステイに関する受け入れ大学の立場

ハワイ大学はホームステイにかぎらず、寮・ホテルなどの宿舎を斡旋するなどの実質的な業務を伴う斡旋は基本的に行わない。寮の担当窓口や、ホテル、斡旋業者の連絡先を紹介するのみである。30%の手数料を支払えば、宿舎の斡旋をも引き受けるとのことであったが、実のところ、地元の斡旋業者に依頼するということであったので、この方法は無意味であろうし、この制度を利用している参加者はいない。大学は、ホームステイに関してはむしろ消極的である。以下の「ハワイ大学アウトリーチ・カレッジ ハワイ滞在中の宿泊先について」という案内からの抜粋を参照されたい。

「ホームステイは様々な問題の生じる可能性があるため当プログラムではお勧めしておりませんが、ホームステイを検討される場合、ホストファミリーは家で英語を話すか、与えられる部屋と食事に問題はないか、また、大学までの交通の便は良いか確認されるとよいでしょう。参考までにオアフ島内の主なホームステイの連絡先を下記に記載させていただきましたが、ハワイ大学、及びアウトリーチ・カレッジとは関わりを持っていませんので、詳細は各事務局へ直接お問い合わせください。」

大学側のサポートの範囲を予め十分に確認しておく必要がある。大学によっては、斡旋料を研修費用に含めて、ホームステイや寮などを割り振ってくれるところもある。もちろんその手数料の分、参加者の負担が増えることは覚悟しなくてはならない。本学で短期英語研修として派遣しているカナダのリジャイナ大学などはこの方法をとっている。いずれにせよ、受け入れ大学の支援として足りないところは、その大学側に要求してもよいが、契約社会の米国やカナダにおいては、責任の範囲を明確にするため、受け入れ大学側が明文化して提示している範囲を超えての支援は望めないと思われる。宿舎の問題に限らず、責任の明確化の副作用としての参加者に対するサポートの足りない部分をいかに日本の送り出し大学側で補うかが課題となる。

#### 6. 4. ホームステイ選定の基本的留意事項

良質のホームステイ先の確保は、良質のホームステイ業者を選定することから始まる。今回、大学側に業者の連絡先を聞いた際に、ひとつだけ教えてもらった業者は、皮肉なことに今回の引率者の検証では、今回依頼した3業者中最悪であり、次回以降は依頼を中止せざるを得ないところであった。引率者が現地に行き、みずから判断し、対処しなくては、ハワイ大学側の懸念する「様々な問題の生じる可能性」が現実化するのとは避けられないと感じた。以下に、ホームステイ選びのポイントを述べる。これらのポイントは業者に斡旋を依頼する場合、プライオリティーをつけ、どこまで妥協でき、どれが、妥協できない点かを確実に伝え、参加者の意向をその都度確認しながら、双方が納得する線を探るというきめ細かな作業が要求される。日本側派遣元の学生にとっては、今後海外旅行に行くことはあっても、数週間にわたる海外でのホームステイは一生に1回のイベントになる可能性が高い。異文化に対する印象もこのホームステイによって決定的な影響を受ける。良質なホストファミリーの選定には慎重が上にも慎重が期されるとともに、業者との信頼関係の構築、そして時には当方の要求を飲ませる交渉力も必要とされる。もちろん、プライオリティーを明らかにするのは、参加学生の責任だが、情報を与え、適切な判断を促すことは派遣元の責任であり、業者と交渉するのもその担当者である。

#### 6. 5. ホームステイの費用

ホームステイの料金は、ハワイの場合、斡旋手数料込みで、3週間で（斡旋業者間で多少の差はあるものの）約11万5千円であった。これは、最低料金の寮（1部屋40ドルに1人で宿泊した場合であり、2人で宿泊すれば半額になる）に3週間滞在した場合の約8万5千円より3万円ほど高いが、ホームステイは3食付である一方、寮では食事は別料金であることを勘案すれば、むしろホームステイの方が低料金となる。さらに滞在が長くなれば、ホームステイ斡旋料は一定であり、宿泊の割引もあるのでさらに割安になる。また、ホームステイファミリーと外食に出かける場合も、食事代はホームステイファミリーが持つ。

別途100ドル程度のデポジットを要求する斡旋業者がある。これは、ホームステイ先で、国際電話などを無断でかけていたことなどが帰国後に発覚した場合に、そこから、必要分を業者がホームステイ先に支払うものである。残金は数週間後に参加者に小切手で郵送されてくるが、ドル小切手を円に替えることは日本国内でもできるものの、約4千円の手数料と数週間の時間を要する。このデポジットについては、大学の機関保証ということにして免除してもらうように交渉するべきだろう。

#### 6. 6. ホームステイでの食事

食事は一応、2食付の場合と3食付の家庭があるものの、食事らしい食事は夕食のみであり、朝食は、自分でコーンフレーク、トースト、フルーツ、コーヒーなどを適当に準備して食べる。また、昼食も、前日の残り物やパンなどを適当に学校に持っていくことになる。原則として、冷蔵庫にあるものはすべて自由に食べたり、飲んだりして構わないので（ただし、夕食のためにとってある材料などには注意が必要）、2食付と3食付の区別は厳密なものではなく、2食付と説明があっても、自分で昼食を作って持っていくことを申し出ることができる。食後の後片付けは、学生の役目である家庭が多い。お客さんとしてではなく、家族の一員として扱われ、そのように振舞うことが期待される。この点、一般に日本の男子学生は家事ができない傾向が



あり、注意が必要である。家事を手伝いながら、コミュニケーションも進むので、積極性が求められる。

食事の好き嫌い、アレルギーははっきりと伝えなくてはならない。副菜は1、2品のことが多い。であるから、それが食べられないとなると受け入れ家族との間もぎくしゃくする。また、アレルギー反応を起こした場合、家族に法的な責任はないというものの、家族は気を使う。メニューが単調なところもあれば、毎日、高級レストランでの食事のようなところもある。

アルコール類は学生は原則禁止である。ハワイでの飲酒は21歳以上に認められているものの、ホームステイ先での飲酒は特別な許可を得なくてはならない。

#### 6. 7. セキュリティー・門限

食事時間は、子供がいる場合は早く、6時から7時ごろ、子供がいない場合は、7時から8時ごろである。学生もそれまでに帰宅することになっている。それができない場合には、家族に連絡する必要がある。連絡が遅れると、家族は斡旋業者に連絡をするようになっている。業者はそれを受けて、学生に注意を与え、改善されないときは、契約不履行としてホームステイを打ち切る権利を持つ。このように学生の生活は受け入れ家族によってある程度管理されるので、セキュリティーの点で安心できる。これが、寮やホテルで近くに繁華街があれば、全くコントロールが利かないだろう。

とくにエンターテインメントに関しては、ワイキキに集中するが、夜のワイキキに学生が1人で行くことは厳につつまなくてはならず、必要ならホストファミリーがエスコートしてくれることは、安全の意味でも心強い。

#### 6. 8. 通学方法：バス

キャンパスから歩いて通える距離にはホームステイは少ない。あっても1年以上の長期滞在者に抑えられていることが多い。今回、本学参加者の1人がそのようなホームステイを得ることができたが、これは偶然のことであった。普通はバスで通学することになる。

1ヶ月42ドルのバスを買えば、オアフ島内乗り放題である。バスサービスはワイキキ以外、本数が多くなく、朝夕を除くと、ホームステイが多い地域とハワイ大学の間には1時間に1本程度の便しかない。今回、本学の学生が泊まった地区には、朝夕3本程度のエクスプレス便または大学直行便があり、遠いところの学生でも40分ほどで学校に着くことができる。しかし、それ以外の時間帯の場合、遠いところのホームステイ先までは、1時間程度かかり、それも1時間に1本の割合でしかない。

ホームステイ先を探すときには、遠くても、バス普通便で1時間以内のところに限るべきである。朝夕のエクスプレス便、大学直行便などを利用して、通学時間を半分近くに短縮できるところも多いが、そのエクスプレス便以降は普通便になり、待ち時間も長くなるので、原則としては、エクスプレス便のあるうちに帰宅するのがよい。

#### 6. 9. 家族構成・家屋

まず、日本人が典型的に思い描く、白人の夫婦に子供がいて、広い庭とプール付きの家というのは、現在のハワイでは珍しい。白人の人口比は3割程度でしかない。他は、ハワイのネイティブ、中華系、日系、フィリピン系、他アジア系が多く、もちろん混血も進んでいる。共働

きが普通で、また、とくにホームステイ家庭ではシングルマザーも多い。ホームステイ家族は上記のステレオタイプのな家族構成とは違う家族構成にこそ多い。離婚、子供の独立などで部屋が余っていることがホームステイを受け入れるきっかけになることが多いからである。それでも、派遣側からの要求項目には以下のことがらを挙げるべきである。その上で、交渉時にどれを譲り、どれを譲らないかを明らかにしていくことである。

まず、夫婦が揃っていることを要求するのがよい。夫婦が揃っている方が学生から家族へ、また、逆に家族から学生へのセクシャルハラスメントの可能性が低くなる。また、男性・女性の考え方は（日本人が常識的に思っているのとは反対に）日本ほど均質ではない。会話を通して、文化・考え方を偏りなく知するためには、夫婦が揃っていた方がよい。

子供は同年代の者がいる場合が最もよい。考え方も近く、会話がはずむ。小学生程度の子供がいるのもよい。子供は日本人学生の英語の拙いことを容赦しない。一緒に遊びながら会話ができる。小学生以下の子供がいる家庭は勧められない。両親が子供に費やす時間が多く、学生との会話の時間が少なくなる。シングルマザーで小さい子供がいる家庭は避けるべきである。下手をすると母親が帰ってくるまでのベビー・シッター役になってしまうこともある。

家屋も収入に応じて差が激しい。それでもホームステイ料金は同額である。家屋や食事内容のみで比べたら差がでることは当然であり、それを比較して、他のホームステイ先をうらやんでもはじまらない。家族自体に満足できるかどうかを基準にホームステイ先を選ぶべきである。今回の本学学生の一人は夫が歯科医師兼アーティストで、妻がハワイでは珍しい専業主婦であり、時価1億円はくだらないという家にお世話になっているが、これはむしろ例外的である。（ちなみに現在のホノルルは地価のバブル期となっており、地価から想像するほどの豪邸ではない。）

#### 6. 10. 部屋

部屋は日本家屋の4畳半から6畳ほどのこぢんまりとしたものが多い。標準的には、ベッド、勉強机、スタンド、クローゼットだけの質素なものである。エアコンもないのが普通である。（夏でもエアコンなしで寝られる気候であるということである。）テレビがつく場合もあるが、それはめずらしい。テレビがあっても、自分の部屋にこもってテレビを見ているのは禁物である。なるべく自分の部屋にはいないようにし、家族との英語のコミュニケーションの時間を自ら作るべきである。

毎朝ベッドメイクをするのが原則である。部屋を清潔に保つことも当然である。部屋での飲食は禁止されている場合が多い。（害虫を誘引しないため。）部屋を整理整頓することが、日本人学生は、ヨーロッパの学生に比べて下手であるとの指摘を受けた。ベッドメイキングの習慣がない場合、それを学習しなくてはならないが、これに限らず、日本人の方が一般に自立していないということであった。

#### 6. 11. ホームステイ先にホームメイト（他のホームステイ者）がいる場合

複数のホームステイ学生を受け入れている家族も多い。参加学生はなるべく、他にホームステイの者がいない家族を選ぶべきである。他に英語を学習する目的で滞在している者がいる場合、その分確実に自分が英語を話す機会が減る。英語よりも異文化交流に関心がある場合は、他に学生がいる家庭もいいのかもかもしれないが、それでも、日本人は避けるべきである。日本人がいる場合、普通、日本語使用は禁じられる。しかし、日本人同士の英語での会話は、不自然で

あり、照れや、心理的圧迫感を拭き切れない。そして、どうしてもコミュニケーションがうまくいかなくなって少しでも日本語を話してしまうと、せっかくのホームステイの価値や効果も低いものになってしまう。

#### 6. 12. ホームステイでの賠償責任

ホームステイ先において、物品の破損、他者への傷害などにより、学生に賠償責任が発生したとき、それは海外旅行者保険で賄う。逆に学生が被害を受けた場合、もちろん、学生自身の責任による自身の怪我等についてはホームステイ先には責任がないが、ホームステイ家族に非がある場合には責任の追及を参加者自身ではなく、引率などの担当者が仲介に入って行うことが望ましい。

#### 6. 13. ホームステイ家庭とうまくいかない場合

学生とホームステイ家族の関係が好ましいものにならない原因は千差万別である。原因が明らかでない場合もあれば、ただ何となく馬が合わないという場合もある。こういう場合、まず、学生と家族が話し合うことが求められる。日本人は交渉ということ事態をあまりよしとしないことが多い。交渉することで相手の機嫌を損ねるのではないかと危惧するからであろう。しかし、実際には、逆に、何も言わない、主張しないのは、それはYESのサインを送っているのと同じことであり、それでいて、家族に対して不満を持っているというのは、家族側からしてみれば全く理解できないことであり、ある意味で卑怯な態度とも取られかねない。海外生活経験者にとっては、「自分の考えは口に出していわなくていけない、特に西欧社会においては」といった明白かつ陳腐な基本的行動様式の違いの認識やそれに基づく実践もできない参加者が多いということは、派遣側の担当者は理解しておき、適切なアドバイスをする必要がある。家族との交渉を経てもなお、問題が解決しない場合、引率者等担当者が仲介して問題解決にあたることになる。斡旋業者によっては学生と家族の間に入って調整してくれるとこともあるが、それには頼ることはできないだろう。というのは、どちらかに明らかに非がある場合には即座にホームステイ先を変更することになるが、原因が明白でない場合、斡旋業者は、ホームステイ先を変更しても状況が改善される保証がないことから、変更を認めないことが多い。こういう場合、引率等担当者が参加者、家族、斡旋業者の3者の間に入って、特に参加者に不利にならないよう、交渉することが期待される。

#### 6. 14. ホームステイ斡旋業者の評価と問題

これまでも述べてきたように、ホームステイの選定は語学留学の最も大事な部分である。そのために、派遣側が個々のホームステイ先を評価し、選定するのが理論上は最善であるが、日本の大学側の担当者がそれを行うことは物理的に不可能なので、派遣大学は、参加者のホームステイ先の手配を斡旋業者に依頼することになる。よって、派遣大学としては、斡旋業者がどのような家庭をホストファミリーとして斡旋するのか、現地でのフォロー体制はどうなっているかなどを総合的に判断して斡旋を依頼することになる。その意味で斡旋業者に対する評価というのは重要である。以下は、ケーススタディとして、3つの斡旋業者とのやりとり、その業者の斡旋した家庭を実際に視察することなどを通してそれら業者を評価したものである。

業者1

評価：A～E五段階評価のD

理由：担当者の交代が激しい。ホームページに記載してある責任者と日本からコンタクトした時の窓口担当者が異なっていた。さらに、到着後の担当者が代わった。責任者は、引退し、はじめの担当者は出張中とのことであった。対応が雑。他の業者が斡旋したホームステイ家族は、空港出口でネームカードを持ち、参加者を出迎え、レイのプレゼント、記念撮影と暖かく歓迎してくれたのに対し、この業者に斡旋してもらった学生は、到着後、駐車場に待機している、雇われ運転手に電話をしなくてはならなかった。その後出迎えの場所の指示があったが、それは運転手にとっては停車しやすい場所であったが、学生にとっては分かりにくい場所であった。雇われ運転手が無事ホームステイ先に参加者を送り届けたのか、ホームステイ先の家族が外出することなく、うちで待っていたのか等について業者が確認すべきであったが、業者はその確認を怠った。(代わりに引率者がホストファミリーに電話で確認した。) 業者は学生の到着後、1両日中にホームステイ先に連絡し、参加者と受け入れ家族の双方に問題がないかを確認すべきであったが、それを怠り、引率者の抗議により、3日目に実施した。この確認作業の業者側担当者がまた別の者であったため、業者側ではホームステイ先への連絡を担当者が行ったはずと繰り返すばかりで、事実の確認が遅れた。引率者がホームステイ先へ訪問することを申し出た際、はじめ、業者のポリシーとして拒んだ。引率者の強い抗議の結果、申し入れから1日後に訪問許可が出た。以上、今後、業務を依頼するにはあたらぬ業者である。

業者2

評価：B

理由：誠意ある対応をするが、仕事の仕方は十分にプロフェッショナルなものとはいえない。たとえば、ホームステイ先の情報はメールにて略式のものに参加者に送付してよこすが、Confirmation letterのような正式なものや写真などを欠いている。業者が引率者とともに、ホームステイ家庭を訪れ、そこで、ホストファミリーとの契約事項の確認を行い、学生の希望を伝えるとき、ホストファミリーに対して、遠慮し過ぎの面が見えた。学生と受け入れ家族との間で不都合が生じたとき、学生の不利にならないよう交渉することができないのではないかという懸念を抱かせる態度であった。

業者3

評価：A

理由：すべての点で、きめの細かな、ぬかりのない対応ができる。学生の面倒見もよく、ホストファミリーに代わって、学生をリクリエーションに誘ったりもしていた。受け入れホストファミリーの開拓には、広告を一切使わず、必ず、他者の推薦によっているため、素性の知れないホストファミリーを排除できている。ホストファミリーのランク付け、不適当なファミリーのリストからの削除などを行い、質を高く保っている。リストに保有するホームステイの件数は50件から80件ほどであるとのことであった。実のところ、同じ家族が複数の業者に登録している場合もある。時期にもよるが、冬には20件ほどの空きがあるが、夏にはほぼすべてが埋まるそうである。受け入れ家族への学生への接し方についてのアドバイスも行い、受け入れ方法が家庭間で差がつかないように配慮している。今回の調査では一番よかった業者ではあるが、ハ

ワイ大学側からももらったパンフレットのリストには掲載されていない。その理由は今のところ明らかではない。

そのほかのホームステイ関係の組織としては、2、3あるが、その中には、ボランティアの団体もあり、料金も手数料程度で済むそうであるが、質にはばらつきがあり、責任を持って斡旋するわけではないとのことであった。

## 7. 危機管理・健康管理

### 7. 1. Student Health Service

ハワイ大学内のStudent Health Serviceでは簡単な治療も受けられる。co-paymentと呼ばれる5ドルから15ドル程度の小額で診察・治療を受けられる。参加者は原則として海外旅行者保険に加入を義務づけるが、大きな病気・怪我でない限り、まずはStudent Health Serviceでの受診を進めたい。ただし、学外の病院を探していく手間を惜しまなければ、それでもよいだろう。その場合にはco-paymentとしての5ドルから15ドルはかからず、はじめに全額を支払い、後、海外旅行者保険から全額返済を受けることになる。

### 7. 2. 危機管理と引率者

Outreach collegeでは「インターナショナル・プログラム参加に関する諸事項」の中に以下のような一節を明記し、引率者が同行することを求めている。

「参加者の健康状態や金銭面の管理、細かい生活面での指導が必要とされることを考慮し（長期間のプログラムの場合は特に）原則として、引率者（先生方等）の常時同行をお願いしております。また、弊方企画のプログラム以外の時間帯には、当大学では参加者の行動は管理していません（中略）なお、期間中にけがや病気をなされた場合には、当大学では個別の対応はできかねますので、引率者に参加者の健康管理をお願いしております。」

米国は完全な契約社会である。契約にないことには、一切責任を持たない。派遣元となる日本の大学としても危機管理の観点から、けが、病気、損害賠償などの個々のケースに対し、責任の範囲と対応の仕方を明文化し、留学に関しては、参加者および保護者との間で免責事項について契約書を交わす必要があると考える。大学として派遣を主催するならば、一般に、事故等の責任は追及されるものと考えざるを得ない。事故などの際の賠償責任を「海外旅行者保険」の保険業者に依託し、大学として一切の責任をとらないということならば、それを明文化し、出発の前に予め、大学の免責について参加者の同意を文書で取り付けておくべきである。

原則として、引率者は研修の全期間現地に滞在して、不測の事態に対応できる態勢を整えるべきである。

参加者が病気になった場合、事故にあった場合などは、すぐに連絡を受けられるように、携帯電話を持つべきである。日本の携帯電話を海外でも使えるように契約して携行することもできるが、この場合は日本国内からの転送サービスとなるため、ハワイ内からの電話でも、それは国際電話となり一旦日本へかかり、それがハワイへ転送されることになるので、不便である。ローカルコールで受信できるように、現地で使える携帯電話をレンタルするのが得策である。

引率者自身が誤って業務上過失傷害・致死を起こすに至ることも可能性としては想定しておかなくてはならない。国家賠償が行われないであろうことが予測される国立大学の法人化後は、大学がどのように海外にある引率者を保護するのかを決定、明文化して、引率者の業務上の保障がなくてはならない。

## 8. 参加者の評価

参加者に対して以下のような参加後アンケートを実施した。

(1) 英語の授業のレベルはどうでしたか？

1 簡単すぎる 2 やや簡単 3 ちょうどよい 4 やや難しい 5 難しすぎる

(2) 英語の授業の内容に満足しましたか？

1 不満 2 やや不満 3 どちらとも言えない 4 やや満足 5 満足

(3) プログラム（3週間）の長さはどうでしたか？

1 短すぎる 2 やや短い 3 ちょうどよい 4 やや長い 5 長すぎる

(4) ホームステイはどうでしたか？

1 不満 2 やや不満 3 どちらとも言えない 4 やや満足 5 満足

(5) このプログラムをほかの学生にも勧めますか？

1 勧めない 2 あまり勧めたくない 3 どちらとも言えない 4 少し勧めたい  
5 強く勧める

4名の参加者全員からの回答があり、以下のような結果になった。

	参加者A	参加者B	参加者C	参加者D
質問（1）：授業のレベル	3	2	3	2
質問（2）：授業の内容	4	5	5	2
質問（3）：プログラムの期間	1	1	1	1
質問（4）：ホームステイ	4	5	5	5
質問（5）：他者への推薦	5	5	4	5

人数が少ないので、統計的に断定できることはないが、以下のような明らかな傾向が読取れる。授業のレベル・内容およびホームステイなど、プログラム自体にはおおむね満足している。そのため、このプログラムを他にも勧めている。しかし、全員が指摘しているのは、3週間という期間の短さである。しかし、これは、プログラムが大変満足のいくものであったから、もっと長く続けたかったという、ポジティブな期待と解釈できる。この期待に副えるように、期間を長くすることは可能である。しかし、そのための手続き上、料金上の違いを勘案すると、3週間で越える期間を設定するには慎重にならざるを得ない。まず、料金は確実に高くなる。手続きの点からは、ハワイ州が要求している予防接種の履歴の証明が必要となる。これは日本

国内の病院で、英語で記述してもらうものだが、面倒で費用もかかる。そして、査証も必要となり、これもまた、手間と費用が増えることになる。また、航空券も21日F I Xという割引料金の対象とならず、割高の90日F I X料金となる。以上のことから、3週間という日程は、恣意的なものではなく、簡便に低料金で組める最長の期間であるといえる。

## 9. 短期語学研修を日本の大学が主催することの意義

昨今、短期語学留学が盛んであり、巷間の旅行会社や英語学校では、短期語学留学の企画が目白押しである。そんな中であって、大学として短期語学留学を主催して推し進める意義は何であるかを考えてみる必要がある。もし、民間企業が主催するものと大差がない、あるいは、民間企業主催のものの方が優れているというのであれば、あえて、大学の教育・事務職員が時間を割いて企画・実施する意義は低いといわざるを得ない。大学主催の短期語学留学の民間との差別化の鍵は以下の3点に絞られると考えている。(1)大学の単位に振り替えができる、(2)大学の保証と保障があり、安心である、(3)費用が安い。

この3点のうち、現段階で本学のハワイ大学における研修で実現できていると言い切れるのは、(3)の費用についてのみである。2004年の冬プログラムの場合、民間業者を通じて参加している参加者と、本学からの参加者の支払った費用を、期間や宿泊(ホームステイ)も同条件で比較したところ、2~3万円の差があった。この差が留学斡旋業者の中間マージンということになるだろうか。

(1)については、既に述べたように、短期語学留学参加の大変重要な動機付けとなることは間違いないが、制度化は今後の課題である。

(2)の保証とは、研修内容の保証である。これは、(1)とも関連するが、大学が研修の内容を吟味して、単位として認めてもいいものであるとの保証をすることである。参加費用は上述のように妥当なものとはいえ、個人にとっては、安いものではない。それにみあった内容を保証することは主催者の当然の責任である。そして、保障とは、引率者の派遣を含めた、危機管理機能を万全にし、参加者の安全を保障し、参加者および保護者に「安心」してもらうことである。これも今後の課題である。

最後に、上述の差別化とは異なるが、大学側としては、短期語学研修の参加者を増やすことは、国際交流という観点から、数値として表しうる実績として、対外的な説明に有効な手段となることを多分に意識している。中期目標・中期計画に基づく年度計画に短期語学留学・研修への派遣人数を数値目標として入れている大学が多いのもそのためであろう。

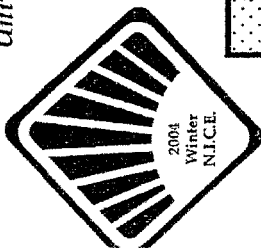
(国際センター 助教授)

## 参考文献

- 亀高鉄雄 2004 短期語学プログラムによる派遣業務に関する一考察 一岡山大学4か年の実績を踏まえて一 岡山大学留学生センター紀要第11号 13-30.
- 中央教育審議会 2003 新たな留学生政策の展開について(答申)一留学生交流の拡大と質の向上を目指して一 文部科学省ウェブページ [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/cukyo/chukyo0/toushin/03121801.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/cukyo/chukyo0/toushin/03121801.htm)より



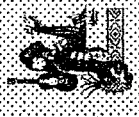


[資料 1] Winter NICE 2004 スケジュール

University of Hawai'i at Manoa \* Outreach College \* New Intensive Courses in English



# WINTER N.I.C.E.

February 9 - 27, 2004

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
8 February 	9 8:45-9:30 Welcome, Introductions Placement Test Kuykendall 101 9:30-11:30 Oral Interviews & Orientation Campus Center Ballroom	10 8:15 Students report to NICE office to pick-up class assignments 1:00-2:00 Optional Excursion Sign-up John Young Museum Courtyard (near NICE office)	11 8:30 - 12:20 Classes	12 8:30 - 12:20 Classes 1:00-2:45 Volleyball game Klum Gym (optional activity)	13 8:30 - 12:20 Classes	14 Saturday Valentine's Day 6:00 PM - 8H Mon Basketball game (optional activity)
15 President's Day  9:00-1:00 Program- Wide Front Kapiolani Park - Waikiki NICE OFFICE CLOSED	16 8:30 - 12:20 Classes Hula Workshops Krauss 012 9:30 Tad 10:30 Danielle 11:30 Robert	17 8:30 - 12:20 Classes Hula Workshops Krauss 012 Ceylon 10:30 J.P. 11:30 Loryn 2:30-5:30 PM Whale-watching Cruise (optional activity)	18 8:30 - 12:20 Classes Hula Workshops Krauss 012 Ceylon 10:30 J.P. 11:30 Loryn 2:30-5:30 PM Whale-watching Cruise (optional activity)	19 8:30 - 12:20 Classes	20 8:30 - 12:20 Classes 12:30-1:30 Hawaiian Lunch John Young Museum (optional activity)	21 
22 	23 8:30 - 12:20 Classes	24 8:30 - 12:20 Classes 1:00 Graduation Information due 1:00-4:00 Diamond Head hike (optional Activity)	25 8:30 - 12:20 Classes	26 8:30 - 12:20 Classes	27 11:30-2:30 GRADUATION Waikiki Radisson Prince Kuhio Hotel	

**Interchange Schedule:**

Ceylon: 8:30 Tues/Thurs  
 Danielle: 9:30 Mon/Wed/Fri\*  
 Robert: 10:30 Mon/Wed/Fri\*  
 \*Wed/Fri Weeks 1 & 2; Mon/Wed Week 3

**Classroom Assignments:**

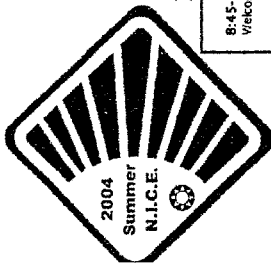
Ceylon: Campus Ctr. 306  
 Danielle: Krauss 101; Conference Rm.  
 Robert: Krauss 003  
 Tad: Campus Center 203 B-C  
 J.P.: Gilmore 301 / 306  
 Loryn: Hamenway 215



[資料 2] Summer NICE 2004 スケジュール

University of Hawai'i  
at Manoa  
Outreach College

**SUMMER N.I.C.E.**  
**July 26 - August 20, 2004**



	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
<b>JULY</b> 25	8:45-8:50 Welcome & Introductions 8:50-9:20 Hawaii Auditing Test 9:30- 11:30 Orientation & Oral Interviews 11:45-12:30 Campus Tours	8:00-8:15 Students pick-up class assignments from NICE office 8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	31
<b>AUGUST</b> 1	8:30 12:20 English Classes <i>Hula Workshops</i> See special schedule	8:30 12:20 English Classes <i>Optional Afternoon Excursion</i> Example: Snorkeling	Off-campus excursions with teacher	8:30 12:20 English Classes <i>MOVIE ACTIVITIES:</i> See Special Schedule	8:30 9:20 English Classes 9:30-11:30 Program - wide Movie 11:30 12:20 Movie Discussion	7 <i>Optional Excursion</i> Example: Sea Life Park
8	8:30 12:20 English Classes <i>Optional Afternoon Excursion</i> Example: <i>Body-boarding</i>	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes <i>Optional Afternoon Excursion</i> Example: Pearl Harbor	9:30-1:30 <i>SUMMER N.I.C.E ANNUAL PICNIC</i> Kapiolani Park, Waikiki	14 
15	8:30 12:20 English Classes <i>Program-wide volleyball Game</i> 1:00-3:30	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	8:30 12:20 English Classes	11:15-3:00 <i>GRADUATION</i> Waikiki Hotel	20 <i>Alaha</i> 

TENTATIVE SUMMER NICE 2004 CALENDAR \* SUBJECT TO CHANGE Feb. '04

[資料3] Special English Program スケジュール例

SAMPLE SCHEDULE FOR THREE-WEEK SPECIAL ENGLISH PROGRAM (60 hours)  
INTERNATIONAL PROGRAMS OF OUTREACH COLLEGE - UNIVERSITY OF HAWAII

SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SAT.
<b>WEEK 1</b>	10:30-11:30 Orientation	8:30-10:30 Class	8:30-9:30 Class	9:30-10:30 Class	8:30-12:30 Class	
<b>Students arrive in Hawaii</b>	11:30-12:30 Placement test 12:30-1:30 Lunch 1:30-3:30 Campus tour 3:30- Meeting with Host family	10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	9:30-10:30 American Culture Workshop (Example: Hawaiian Hula) 10:30-12:30 Class	10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	12:30-2:30 Outside Activity (Example: Contemporary Museum of Art)	
<b>WEEK 2</b>	8:30-12:30 Class	8:30-10:30 Class 10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	8:30-12:30 Educational Activity (Example: Bishop Museum)	8:30-10:30 Class 10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	8:30-12:30 Class 12:30-2:30 Outside Activity (Example: Maritime Museum)	
<b>WEEK 3</b>	8:30-12:30 Class	8:30-10:30 Class 10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	8:30-10:30 Class 10:30-2:30 Educational/ Outside Activity (Example: Pearl Harbor/Aloha Stadium Flea Market)	8:30-10:30 Class 10:30-11:30 Interchange with UH students 11:30-12:30 Class	11:00-3:00 Graduation Luncheon and Program	

\*Students are responsible for possible transportation and/or admission fees for Activities.

[資料4] 費用

摘 要	金 額 (円)	備 考
国際航空券	110,000	21日間有効航空券
福岡空港税	945	
ホノルル空港税	5,000	
プログラム費用	72,039	\$ 649 × ¥111
ホームステイ費用	105,450	\$ 950 × ¥111
旅行保険	7,500	
旅行業者手続き費用	6,000	振り込み手数料等
合計	306,934	

①上記経費に含まれるもの

航空運賃 …………… 別紙日程表に記された区間の航空運賃(エコノミークラス)

プログラム料金 …… 指定金額 \$ 649

ホームステイ料金 …………… 指定金額 \$ 950 (朝食・昼食・夕食付き)

空港税・・・福岡空港、ホノルル空港

旅行傷害保険

渡航手続き料金

ホノルル空港送迎費

②上記経費に含まれないもの

クリーニング代、電報・電話代、飲食代等個人的性格の費用

旅券取得費用

福岡空港までの国内移動費



UNIVERSITY OF HAWAII AT MĀNOA  
 New Intensive Courses in English  
**Winter N.I.C.E.**

**STUDENT EVALUATION**

Student: \_\_\_\_\_

Teacher: \_\_\_\_\_

Dates of Study: February 9 - 27, 2004 Level: \_\_\_\_\_

<b>PERFORMANCE EVALUATION</b>		
Speaks only English during program hours	<input type="checkbox"/>	<b>KEY</b> O = OUTSTANDING V = VERY GOOD S = SATISFACTORY N = NEEDS IMPROVEMENT U = UNACCEPTABLE, INELIGIBLE FOR CERTIFICATE
Participation and cooperates class	<input type="checkbox"/>	
Is prepared for class	<input type="checkbox"/>	
<b>COMMENTS:</b> _____ _____		

<b>ATTENDANCE EVALUATION</b>	
HOURS/MINUTES ABSENT or TARDY	<input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>
<i>NOTE: More than 8 hours ineligible for certificate</i>	

\_\_\_\_\_  
*Student's signature* *date*

\_\_\_\_\_  
*Teacher's signature* *date*

<b>ELIGIBLE TO RECEIVE CERTIFICATE?</b>	<input type="checkbox"/> YES	<input type="checkbox"/> NO
---	------------------------------	-----------------------------

[資料6] 評価

## KEY TO STUDENT EVALUATIONS

### SPEAKS ONLY ENGLISH DURING PROGRAM HOURS

- A = *Often* tries to start conversations in English and use new vocabulary and grammar points.
- B = Speaks English *at all times* during class and *usually* during break time.
- C = Speaks English *nearly always* during class; and /or *sometimes* uses native language during break time.
- D = *Usually* uses native language during break time, and /or *sometimes* uses native language during class.
- F = *Often* uses native language in class.

### PARTICIPATES AND CONTRIBUTES IN CLASS

- A = Shows extra interest in class by asking questions and /or sharing opinions and ideas. Keeps a positive attitude during class time. *Often* starts conversation without waiting for the teacher to call on him or her. Is *always* an active, leader in pair and group work.
- B = Pays attention, shows interest, and *sometimes* starts conversations without waiting for the teacher. Is *usually* an active leader in group work.
- C = Pays attention and participates and contributes *when asked to*.
- D = *Sometimes* does not pay attention and /or shows lack of motivation.
- F = *Often* does not pay attention during class time. Wastes class time by not participating even when called upon and given enough time to answer.

### IS PREPARED FOR CLASS

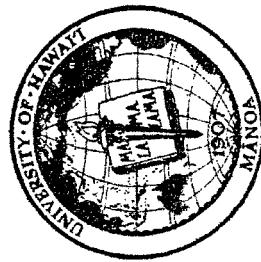
- A = Completes *all* homework. Always shows outstanding effort and attention to detail.
- B = Completes *all* homework. *Some* assignments are outstanding.
- C = Completes *all* homework assignments, but does only the minimum required; OR does not complete *a few* assignments, but *some* assignments are outstanding.
- D = Fails to complete *a few* homework assignments. Homework assignments usually show *little effort*.
- F = Fails to complete *20% or more* of the homework assignments.

[資料7] Certificate

# University of Hawai'i at Mānoa New Intensive Courses in English

This is to certify that

participated in a non-credit intensive course  
in spoken English and American culture,  
during the period



Dean of Outreach College

Associate Dean of Outreach College